

2学期終業式 講話

「みんなちがって、みんないい」

おはようございます。長かった2学期も今日で終了します。

2学期を振り返ると9月には文化部発表会、生徒会選挙、10月には新人戦、11月には合唱コンクール、創立70周年記念式典、持久走・駅伝大会や1・2年生のフィールドワークなどの行事があり、それぞれみなさんの素晴らしい活躍や頑張りを目にすることが出来ました。そして12月、世間では師走と言いますが、1年の締めくくり、年の瀬です。今年1年を振り返り、無事に過ぎたことに感謝し、新たな年を迎える準備をする時期です。年末年始に自分自身を振り返り、新たな目標を立ててください。

さて今日は、「みんなちがってみんないい」というお話をします。

金子みすゞさんという詩人が書いた「わたしと小鳥とすずと」という詩があります。みなさんは知っていますか。ちょっと紹介します。

わたしが両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥はわたしのように、地面（じべた）を速くは走れない。

わたしがからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あのなるすずはわたしのように、たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥とそれからわたし、みんなちがってみんないい

この詩は、みんなそれぞれ個性や特性があって、でもそれに優劣はない、それぞれが素晴らしい、みんながちがっているのは当たり前でそれでいいのだということを教えてくれます。

朝霞第一中学校には800人を超える生徒や先生がいます。みんなそれぞれに個性があり、一人ひとり違います。これって当たり前かもしれないけれど、とっても大切なことです。それぞれのクラスや学年にはいろいろな人がいますね。もしみんな同じ顔で同じ性格の人ばかりだったら・・・これは相当に気持ち悪い。

ちょっと考えてみてください。明るく元気な人、物静かでしっかりしている人、スポーツが得意な人、勉強が得意な人、絵がうまい人、みんなをまとめるのが上手な人、縁の下の力持ちのように仲間を支えてくれる人、だれとでも仲良くできる人・・・

そして・・・運動が苦手な人、勉強があまり得意でない人、・・・みんなとうまくかかわることができない人、友達作りが苦手な人、自分の気持ちをうまく伝えられない人、学校に来られずに悩んでいる人、教室に行けずに苦しんでいる人、うまくいかないことがあるとパニックになってしまう人、かっとなって自分がコントロールできなくなってしまう人・・・

いろいろな人がいます。そしていろいろな人がいていいんです。時として人間は自分の価値観と異なったり、自分と合わなかったり、ちょっと変わっている

というだけでその人を否定したり、仲間外れにしてしまうことがあります。

でも「みんなちがって、みんないい」んです。この朝霞一中にはいろいろな人がいていいでしょう？そりゃあ、これだけたくさんの方が一緒に生活していればトラブルや行き違いはあります。中には迷惑だなあと思うことがあるかもしれない。でもだからといってその人の存在を否定したり、からかったり、いじめたりしないでほしいのです。学校はいろいろな人が生きていて、生活していて、存在していていいところだと私は思っています。

少し抽象的な話をしましたが、もう一回言います。みんなちがって、みんないい・・・ 今日の話が終わります。3学期に元気に会いましょう。